CRPD第27条・一般的意見案へのコメント（2021年12月）No.２０

**CRPD27条に関する一般的意見案への意見**

チャンディ・グローフ

（JD仮訳）

**Submission to the draft on GC on art 27 CRPD**

Thiandi Grooff

ジャンナ・イスカコヤ（Janna Iskakova）（訳注　国連職員）様

意見をお届けする機会をいただき、ありがとうございます。以下は私の提案（黄色でハイライト）です。（訳注　仮訳ではハイライト部分をゴシックにした）。

パラグラフ3について

生まれたときからのインクルージョン、とりわけ学校でのインクルージョンの重要性は、27条の最も重要な土台です。雇用主や同僚にとって、学校生活と学校以前の生活で障害を理由とする差別に慣れていると、インクルージョンを理解することは非常に難しい。差別が、ハンディキャップを持つ人の尊厳を侵害すると感じることはないだろう。提案：インフォーマル経済という言葉の後の、末尾に、**「能力主義は、障害を理由とした教育での差別の結果である。インクルーシブな教育は、第27条の実現に最重要である。**」を追加する。

パラグラフ4について

3行目の他の人の後に、「**彼らは適切な教育のより大きな排除に直面している。**」を追加してください。なぜなら、適切な教育がなく、雇用主がインクルージョンを経験したことがなければ、労働市場への彼らの包摂を始めるのは難しいからです。

パラグラフ 97Aについて

 私は、と差別の後に、「**雇用主と同僚に対して、どうしたら障害者が歓迎され重んじられていると感じられるようにできるかの研修をする**」を追加します。

パラグラフ 97Gについて

ハンディキャップを持つ人の願望を理解することが重要です。なぜなら、私にとっては、グループの中で複雑なハンディキャップを持つ人が常に自分一人であることが大きな困難であったからです。私は、パラグラフ97G IIIの、ワークショップの語の後に、「**ハンディキャップを持つ人が新しい職場で仲間（友達、buddy）が確実に得られようにする。**」を加えることを提案します。

パラグラフ97Hについて

ハンディキャップのある人の多くは、過去に（学校であるいは学校によって、又は他の場所で）拒絶された経験があり、そのことがトラウマになっている人が多いので（私も含め）、2行目のインフォーマル経済の後に、「**自信をつけるための訓練**」を加えるよう提案します。

敬具

チャンディ・グローフ　ヨーロッパおよび国際人権法修士。

ライデン大学ロースクール（オランダ） Thiandi2@hotmail.com

（翻訳：佐藤久夫、松井亮輔）